

No. 1006

輪島、王座を防衛

—世界J・ミドル級選手権—

チャンピオン輪島功一（三迫）対挑戦者世界同級8位。竜反町（野口）の15回戦は、4月20日、大阪府立体育館に、8千人の観衆を集めて行なわれました。

輪島の変則の動きに、右フックアッパーのカウンターからなんとかチャンスをつくろうとする反町。

4回、反町の右アッパーに輪島はたじろいだものすくりに反撃、5回には、輪島のボデー攻撃にロープ際においつめられて、苦しい反町、10回には、反町の反撃に輪島はチャンピオンらしい余裕をみせて応戦。

輪島とくいのボデーワークで反町の右アッパーストレートをかわし判定勝ち。

炎の男、輪島も、親友竜反町との対戦とあってか、もえずじまい。試合は盛りあがらない凡戦に終始。しかし輪島はJ・ミドル級での最多記録4度目のタイトル防衛に成功しました。

名古屋にも革新市長

＊学者に政治のことがわかるものか、と批判されませんが、東京も大阪も立派にやられているではありませんか。私は大企業中心の政治でなく市民に直結した政治をしたい。と本山候補。

＊私は12年間、無事に市長をつとめた。政治は地に足がついていなければなりません。私は人の書いた原稿を棒読みするようなことはしません。と杉戸候補。

太平洋ベルト地帯唯一の保守王国を保守が死守するか、革新が奪い返すか、名古屋市長選挙は、現職の杉戸氏と革新統一候補の本山氏が名実共に天下分け目の戦いを演じた。

中央の政界からは連日幹部たちが応援にかけつけた。

＊赤旗を緑の旗にかえても同じこと、杉戸さんは立派な人だから私はこうして応援に来た。と田中総理。

＊ストップ田中を実現しましょう。その為には名古屋で是非勝たなくては。と美濃部さん。

こうして激しい選挙戦は4月22日の投票日に持込まれた。予想通り大接戦の末、結局本山氏が4,700票の差をつけ当選した。

この結果、太平洋沿岸ベルト地帯の大都市で保守の＊拠点、は陥落、今後の政局に大きな影響を与えることは必ずであり、保守陣営は深刻なショックを受けている。